

木更津市市民活動支援センター運営協議会第1回協議会 議事録

○開催日時：令和元年8月30日（金）午後3時から午後5時まで

○開催場所：木更津市市民活動支援センター

○出席者氏名

協議会委員：湯谷賢太郎、平野秀樹、鶴岡英樹、川口正彦、平野光国
青山正子、大坪琴美

指定管理者：川出信治、菊田美智代、江澤茂典

木更津市：地曳文利、石井彰一、阿津直人、北見寛之、佐久間千春
今野涼平

【市民活動支援課：阿津補佐】

皆様、こんにちは。ただ今より、市民活動支援センター運営協議会第1回協議会を開会いたします。私は本日司会を務めさせていただきます、市民活動支援課の阿津と申します。よろしくお願ひいたします。開会に際しまして、市民部長の地曳よりご挨拶をさせていただきます。地曳部長よろしくお願ひいたします。

— 地曳市民部長挨拶 —

【市民活動支援課：阿津補佐】

ありがとうございました。つづきまして、運営協議会の設立概要について説明させていただきます。説明につきましては、市民活動支援課の北見よりご説明いたします。

【市民活動支援課：北見主任主事】

市民活動支援センターは平成27年10月に開館し、1年半の期間を直営によって管理運営を行なっておりましたが平成29年4月1日より、指定管理制度を導入し、管理運営を指定管理者が担っております。

指定管理者は民間ノウハウを活かした、施設の利便性の向上や自主事業を展開しておりますが、指定管理者へ、行政からの意見だけではなく、実際の利用者の意見や有識者の方からの専門的な意見を頂戴することによって、市民活動支援センターの更なる利便性の向上と市民活動の支援及び促進を目的とし、木更津市市民活動支援センターの設置及び管理に関する条例第28条に基づき設置した機関でありますので、各委員の皆様から忌憚のない意見を頂戴するとともに、市民活動に関する情報の調査と必要に応じて審議を行なっていきたいと考えております。なお、同協議会につきましては、平成29年度より設置しており、

平成29年度及び平成30年度につきましては、市民活動支援センターの団体登録基準作成及び設置、障がい者用トイレの改修、駐車場利用の整備、市民活動団体へのアンケート調査についてご審議をいただき、更なる利便性の向上を図ったところでございます。市民活動支援センター運営協議会の概要については以上となります。

【市民活動支援課：阿津補佐】

つづきまして、今回、第一回目ということですので、議事に入る前に、委員の自己紹介をお願いしたいと思います。ご自身のPRでも結構です。どのような市民活動をされているのか、また、市民活動への思いなど、どのようなことでも結構です。それでは各委員お願いいたします。

— 各委員自己紹介 —

【市民活動支援課：阿津補佐】

各委員、ありがとうございました。続きまして、木更津市市民活動支援センター管理運営規則第16条に基づき、会長及び副会長を委員の互選により選任することとなっておりますが、どなたか推薦等がありますでしょうか。

【鶴岡委員】

事務局一任でお願いします。

【市民活動支援課：阿津補佐】

それでは、事務局一任という声がありましたので、会長を湯谷委員、副会長を川口委員をお願いしたいと思います。両委員お引き受けいただけますでしょうか。

【湯谷委員、川口委員】

お引き受けいたします。

【市民活動支援課：阿津補佐】

ありがとうございます。それでは、湯谷会長、川口副会長、ご挨拶をお願いいたします。

— 白石会長、湯谷副会長挨拶 —

【市民活動支援課：阿津補佐】

ありがとうございます。それでは、議事進行につきましては、市民活動支援センター管理運営規則第17条に基づき、会長に議長をお願いいたします。

【湯谷会長】

それでは、議事に移らせて頂きます。議題1の平成30年度事業報告及び令和元年度事業計画についてですが、指定管理者であります、三幸株式会社からお願いいたします。

【三幸株式会社：菊田センター長】

当社の3年目のコンセプトは、活動と活動を繋げるとなっているため、団体と団体を繋げる支援や登録団体の参加型のイベントを開催していきたいと思っています。

続いて、過去の2年間及び令和元年度の目標値と実績について報告させていただきます。平成29年度の年間利用者数の目標値は10,000人に対し、14,339人、平成30年度の目標値16,000人に対し、30,720人となっています。令和元年度については、目標値30,000人に対し、7月末時点で9,862人となっております。目標値が増えた要因としては、成人層が簡単なパソコン作業での来館、学生や子育てママ・高齢者利用の増加、また、HPやSNSや広報紙、カフェ、物品販売等のツールで宣伝を行った結果、利用者が増えたと思われます。さらに、みらいラボのイベント、登録団体のイベントの参加者や口コミが広がってきている、中央公民館の移転に伴う、利用者の増加、各団体のイベント開催に伴う集客力が付いてきた。特にこども食堂、学習支援、事例検討、将棋に係るイベント開催に伴う集客力が付いてきました。

続いて、令和元年度数値目標ですが、まず、年間総利用者数は30,000人としております。昨年度実績より目標値が少ないのは、市民活動団体ではなく、立地的に学生の学習スペース等の利用が多いため、市民活動以外での利用者で混雑した際は、中央公民館フリースペースをご案内することになったため、目標値を低めに設定しております。

続いて、利用促進するための活動として、ホームページやfacebook、みらいラボ通信の充実と、若い世代への情報発信としてLINEを検討しています。また、利用のきっかけになるような自主事業として新たにコミュニケーション講座やパステルアート講座の実施など、より多くの市民が足を運んでもらえるよう取り組んでいます。さらに、地域と事業所、社会福祉協議会やちば南部地域若者ステーションとの連携や学生や若い世代に市民活動に興味をもってもらうため、市民活動団体が学生に興味を持っていただける、ボランティア活動について考

えるワークショップを企画、また、いくつかの市民活動団体がコラボして、世代間で興味があることの意見を出し合うワークショップを開催しました。

次に相談件数ですが、年間相談件数450件を目標としております。

相談促進のための活動として、利用者数増加のために実施する情報発信ツールを活用するだけでなく、市民活動実施場所へ赴き、団体の活動状況を把握することにより、各団体の活動を繋げていきます。補足としまして、市民活動支援センターへの来館者数は減りますが、活動と活動を繋げるため、市民活動をする人を増やしていきます。また、全登録団体に実施している団体活動状況調査を継続して実施してまいります。なお、平成30年度に実施した調査については、46団体から回答をいただいております。回答を得られていない団体には連絡を行い、提出の依頼をしています。調査の内容については、代表の変更の有無、活動内容の把握などとなります。今年度については、今ある活動内容を把握し、市民活動団体同士を繋いでまいります。

続いて、年間団体登録者数の目標値は10団体としております。新規団体登録促進のための活動として、関係機関との連携、社会福祉協議会では、学習支援に係る連携、産業・創業支援センターであれば、創業前に市民活動に興味がある人に対し、活動の場を提供、ちば南部地域若者サポートステーションであれば、15歳～39歳の利用者にボランティア活動に参加していただき就職活動のステップアップの機会を提供するとともに、金田地域交流センターの夏祭りや文化祭にて市民活動団体が活動できる場の提供、さらに、各公民館へ施設だよりの設置等を行ってまいります。また、市民活動団体として活動したい方に登録団体についての説明をするため、個人での市民活動への思いがある人を募り、団体登録に繋げることや、市民活動を知ってもらう、市民活動の根を育てる取り組みを行ってまいります。

続いて、会議室の年間利用に係る目標値は1,000件としております。会議室の利用を促進するための活動として、昨年度末に実施した団体活動調査を踏まえ、団体への活動促進、利用促進する、会議室利用方法、利用用途を明確にし、周知を行う、関係機関との連携をし、周知を行ってまいります。

続いて、令和元年度自主事業実施計画ですが、資料のとおりとなっております。その中で一部説明をさせていただきます。全登録団体交流会ですが、6月29日に開催しました。市民活動とボランティアで広がるまちづくりというテーマで開催しまして、37団体、64名の参加がありました。市民活動コーディネーター養成講座はこれから実施予定となっております。パラリンピック推進講座は、5月にパラスポーツであるボッチャなどの指導者を呼んで、講習会などをみらいラボで開催しました。市民や登録団体が参加し、パラスポーツを通じて団体間、世代間の交流が図られました。また、コミュニケーション教室ですが、今年度初

めて実施しております。市民活動団体が実施する会議等にて、円滑なコミュニケーションを図ることが重要であると考え、話しを聞く、承認する、フィードバックするをテーマに開催しております。

続いて、登録団体が開催したイベント等の実績ですが、ココカラおやこカフェ、こども食堂、プログラミング教室、すぶりばなどがございます。いずれも参加者が多く駐車場が混雑することがございます。

続いて、来場者アンケート内容ですが、学生が席を使っている団体の席がないことに対し、団体優先席を2席用意し、作業室A・Bも団体優先として、学生に対しての席は増設せず、スパークルシティを案内している。また、音楽イベントがあると良いことに対し、登録団体のイベントがある際にHP等で告知を行います。SNS情報のツールを増やしてはどうかですが、現在はSNSの情報ツールはフェイスブックのみですが、決まった人しか見ておられません。そこで、もっと若い人も興味をもってもらいたいため、LINEを検討しております。

続いて、指定管理者が感じる課題及び気づいた点、それに伴う行政への要望ですが、昨年度も要望させていただきましたが、サークル活動と市民活動の分け方の難しさ、会員相互の共益、親睦のみの活動はNGだが目的が公益性になれば登録は可能。その判断材料は団体の思いが基準になっている。活動をいかに公益性の活動に進めていくかが課題。また、審査基準についても明確な判断基準が必要と考えます。センターでどうしても判断がつかない場合は、運営協議会にあげさせていただき、皆さんからの意見をいただき、一緒に協議をさせていただければと考えております。

次に、会議室の利用に関してみらいラボの施設目的に沿った市民活動団体が優先的に利用できることはもとより、個人で市民活動を行っている者に対しても同様の支援を行い、木更津市における市民活動を更に活発化させていくためには、会議室を条例及び規則に規定する団体だけでなく、幅広い方々が利用できるよう検討する必要があると思います。現時点では、条例規則により、個人では利用できないという決まりがありますが、個人で利用させていただきたいとの問い合わせが増えております。

次に、ICTを進める一環として、らづナビがありますが、みらいラボが窓口になっているイベントやボランティア情報を載せていただくことは可能でしょうか。

以上について報告させていただきます。

【湯谷会長】

ありがとうございます。今の説明に対し意見はありますか。

質疑応答：過去2年間および令和元年度の目標値と実績について

【湯谷会長】

簡単なPC作業での来館とあるが、フリーワイファイを目的に来館されるのか。いままではそういう目的の来館は無かったのか。最近増えているのか。

【三幸株式会社：菊田センター長】

最近はそのような利用が増えている。PCを持ち込んで簡単な事務作業をやられる方が多い。

質疑応答：令和元年度数値目標（1）利用者数について

【平野（光）委員】

LINEは最近、一般企業でも採用されてきているので良いと思う。また、フェイスブックについては、成人している人が多く閲覧しているため、若い世代である学生向けにはツイッターが良いと思う。

【湯谷会長】

それぞれのツールで年齢層が違うので、どの辺をターゲットにするのか、広い年齢層に情報を発信するには複数使うのが良いと思う。

【三幸株式会社：菊田センター長】

センターの混雑の状況を電話で問い合わせられる方が多い、ツイッターなどで混雑状況を発信したい。

【川口副会長】

試験シーズンになると、みらいラボ、中央公民館が学生で両方満席になる。

【湯谷会長】

この辺りは勉強をするところがあまりない。それ自体がまた別の問題に感じるが、人が集まっているというのは利用しない手はないと思うので上手く利用していくと良いと思う。また、情報発信に関しては、最近の学生はあまりHPから情報を得るということはしない。送られている情報から必要な情報を選択することが多く、若い人ほど、通知が来るタイプの情報発信ツールの方が良いと思う。

質疑応答：令和元年度数値目標（２）相談件数について

【湯谷会長】

相談推進のための活動で、市民活動実施場所へ赴きとあるが、現場に行って存在をアピールするのか、それともその場で意見交換するのか。

【三幸株式会社：菊田センター長】

市民活動実施場所へ赴き、活動内容を把握している。また、団体から相談があった際、把握している団体同士を繋げる。さらに、個人でボランティア相談があった際に個人と団体を繋ぐ取り組みをしている。

【川口副会長】

ここを利用する人を増やすのが市民活動支援センターのメインか、それとも現場で何が起こっていて、何が困っていて、そこにセンターで集約化された市民活動団体がどう貢献して、現場を変えるのかという方向に重要視しているのか。

今までは、まだ初期の段階なので、団体を増やすということをやってきた、前回からは、市民活動団体が集まる機会が増えてきているが、もう少し現場の方も見て、何が求められていて、何に貢献できるか、もう少し具体的で貢献的な活動ができるとどんな地域でも助け合いができると思う。

【湯谷会長】

公民館とも繋がるのが良い。また、市民活動支援センターの登録団体の活動だけでなく、登録団体になっていないが、公民館を中心に市民活動をしている団体とも話しをしてみてもどうか。

【市民部：地曳部長】

全登録団体に実施している団体活動状況調査の回答率が低いという印象を受けたが、質問の内容が難しかったのか、また、質問の量が多かったのか、団体があまり協力的な状況でなかったのか。回答率が低い理由を分析していたら教えてほしい。

【三幸株式会社：菊田センター長】

活動を休止している団体や出し忘れていた団体もある。また、調査内容が特定の活動に対する内容であったため、書けなかったという団体もあった。調査の方法や内容を考えていきたい。

【湯谷会長】

回答率はどのくらいか。

【三幸株式会社：菊田センター長】

46%である。

【湯谷会長】

アンケートには、現在活動を休止している旨の内容はあったか。

【三幸株式会社：菊田センター長】

活動をしている前提の内容となっていたので、今後は内容を検討していきたい。

【市民部：地曳部長】

回答が多い方がより実態がわかると思うので、現在活動を休止している旨を追加していただいた方が良いと思う。また、どういった理由で活動が休止になっているのかが分かると思う。

【平野（光）委員】

LINEでアンケートができるので検討してはどうか。

【湯谷会長】

アンケートがスマホ上でできると良い。また、アンケート用紙にQRコードを載せてここからでもアンケートが回答できる旨を記載するなど、アンケートの取り方も検討してほしい。

質疑応答：令和元年度数値目標（3）新規団体登録数について

【湯谷会長】

登録団体は減っているのか。

【三幸株式会社：菊田センター長】

7月末で8団体解散している。

【鶴岡委員】

相談件数362件とのことだが、どんな相談があるのか。

【三幸株式会社：菊田センター長】

団体登録したいが、人数が揃わない、市民活動を実施したい思いはあるがどう実現したら良いかわからないとのことや、どういったボランティア活動があるのか、施設をどのように利用使えるのか、イベントをやりたいが使えるのかなどの問い合わせがあります。それに対し、相談していただいた団体と同じ目的をもった団体があれば、今度一緒にコラボしてみてもどうですか。などの提案をさせていただきます。

【鶴岡委員】

社会福祉協議会に登録している団体は公民館を中心としている団体が多いか。

【平野（秀）委員】

社会福祉協議会に登録している団体の活動拠点は、ほぼほぼ拠点が公民館にある

【川口副会長】

私の住んでいる地区も地域の団体は公民館を中心に活動している。その地域の団体はやることがきまっていて、地域の変化に併せて取り組むことに対しては、なかなか目が向かない。

これからの市民活動は、そういうところに、市内全域の市民活動団体が横串を指していけるような動きがないと、なかなか地域や町内、市は変わらない。また、登録団体を上手く機能させ、地域に関連づけた、繋がりを創り、その地域に新しいことを取り組んでいく動きが生きていると市民活動が活性化していく。

質疑応答：令和元年度数値目標（４）会議室利用件数について

【湯谷会長】

年間利用件数が１，０００件とあるが、ほぼフル稼働に感じる。稼働率はどのくらいか。

【市民活動支援課：北見主任主事】

稼働率は約５０％である。しかし、市内の公民館で見るとまだまだ低い状況であるため、１，０００件を今年度の目標としていただきたい。

【平野（秀）委員】

午前・午後・夜間で利用が一番多いのはどの時間帯か。

【三幸株式会社：菊田センター長】

ほぼ夜間が多い

質疑応答：令和元年度自主事業実施計画について

【川口副会長】

自主事業で市民活動を活発化させる取り組みと市民活動支援センターの利用を促進させる取り組みは分けて考えたほうが良い。

【湯谷会長】

カテゴリ別交流会は今年実施したのか。今年のテーマ何か。

【三幸株式会社：菊田センター長】

実施はまだしていない。テーマについては、検討中である。

質疑応答：登録団体が開催したイベント等の実績について

— 質疑なし —

質疑応答：来場者アンケート内容について

【青山委員】

学生が多く来館されているとのことだが何か働きかけは行っているのか。

【三幸株式会社：菊田センター長】

学生向けにどのような市民活動に興味をもっているか考えるワークショップを検討している。

質疑応答：指定管理者が感じる課題及び気づいた点、それに伴う行政への要望について（①サークル活動と市民活動の分け方について）

【湯谷会長】

親睦を目的にしている団体でも最初から利用を断るのではなく、公益に導くことがあっても良いと考える。

質疑応答：指定管理者が感じる課題及び気づいた点、それに伴う行政への要望について（②個人利用について）

【市民活動支援課：阿津補佐】

個人利用を行いたいとの声があるが、現在の条例では、構成員3人以上など要件があるため、条例改正が必要となる。委員のご意見をお聞かせ願いたい。

【湯谷会長】

個人利用について、早めにこの協議会に図り、条例を改正した方が良いと考えるがいかがか。

【平野（秀）委員】

個人で利用したい人はどのような目的で利用したいと言っているか。

【三幸株式会社：菊田センター長】

英語を無料で教える動画を撮影し、youtubeに配信をしたいということや、個人で会議室を借りて、勉強をしたいなどがある。

【市民活動支援課：石井課長】

個人利用については、まず、どういう活動があるのか、件数がどれくらいあるかなど情報を現場の指定管理者や委員と共有・把握し、その後、この協議会にて揉んでいきたい。

質疑応答：指定管理者が感じる課題及び気づいた点、それに伴う行政への要望について（③らづナビについて）

【市民活動支援課：北見主任主事】

らづナビには、基本的に市のホームページに載る情報がらづナビにも載る。ついでには、登録団体が実施するイベントやボランティア情報などを載せることは難しいと考える。ただし、指定管理者が実施するイベント等の情報であれば可能である。また、広報きさらづについては市が発信する情報が優先されるので、載せることはできない。

らづナビに掲載して欲しい情報については、指定管理者からいただければ市側かららづナビだけでなく、HPにも掲載していきたい。

【湯谷会長】

全体を通して何か意見はあるか。

【平野（光）委員】

学生に対して自分達の活動をプレゼンする機会がほしい、学生にとっては、地域を知る良い機会になるので検討していただきたい。

【湯谷会長】

いままでそういう例はないのか。

【三幸株式会社：菊田センター長】

みなとまちなかfriendshipという登録団体に学生に対し、活動内容についてプレゼンを行ったり、学生が今どんなことに興味があるかなどを話し合ったりするのを9月中に実施したいと考えている。

【市民活動支援課：北見主任主事】

昨年、無料の駐車券を配布した方が良いとの意見を受け、登録団体の構成員に対し、市営駐車場の駐車券を配布しているところである。

ここ最近、こども食堂やココカラ親子カフェなどを実施している団体から、登録団体の構成員だけでなく、実施しているイベントを手伝ってくれる人にも駐車券を配布できないかとの意見がある。実施しているイベントを手伝ってくれる人にも駐車券を配布すべきか、意見を聞かせていただきたい。

なお、現在駐車券は、指定管理者が配布している。駐車券をもらう人が、果たしてボランティアなのか、ただの参加者なのか線引きが難しいという意見もある。

【平野（秀）委員】

例えば、こども食堂を手伝いに来たボランティアへ駐車券を配布することができないということか。

【市民活動支援課：北見主任主事】

現状そうである。なので、登録団体の方は市営駐車場に停めていただき、登録されていないボランティアの方は、センター隣の無料の駐車場に停めている現状である。

【平野（秀）委員】

登録団体の人が登録されていない人をボランティアであることを証明すれば配布しても良いのでは。

【市民活動支援課：阿津補佐】

今年度より開始した行政ポイントについて報告させていただきます。8月16日現在で952枚配布しているところです。主に毎月開催しているナチュラルバルにてmy食器、買い物袋等を持参いただければポイントを配布したり、市が実施する各種セミナーへの参加、また、みなと祭り後の事後清掃などで配布しています。今後、様々な条件があるが、登録団体等が実施するボランティア活動で条件が合い、配布出来そうなものがあれば相談をいただければと思う。

【湯谷会長】

市民活動支援センターからも行政ポイントについて登録団体へ説明をお願いできればと思う。

【湯谷会長】

駐車券の話しに戻るが、私も登録団体の人が登録されていない方をボランティアであることを申請すれば配布して良いと考える。また、市民活動支援センターの職員が登録されているか否かを判断するのは難しいので、団体が把握する形をとれば良いと思う。

【市民活動支援課：北見主任主事】

ボランティアの方にも配布する方向で検討させていただきます。また、単純な参加者、こども食堂であれば、サービスの受け手となる人にも配布してもらいたいとの要望があるがどうでしょうか。

【平野（秀）委員】

私的な利用もあるので難しいと考える。チラシなどに乗り合いにて来館されることを記載することが精一杯ではないかと考える。

【川口副会長】

中央公民館はどうか。

【市民活動支援課：北見主任主事】

センターと同様で名簿に載っている人しか配布していません。

【川口副会長】

2時間までなら2時間までと上限を決めて、駐車券を配布しているところもある。整合性を取りながら検討していただきたい。

【市民活動支援課：石井課長】

指定管理者が施設の利用を促進するための自主事業を実施する際も同様に駐車券を出さないという考えで良いか。

【平野（秀）委員】

自主事業については、年間計画に基づき実施されることから、参加される方の駐車券を出した方が良く考える。

【市民活動支援課：石井課長】

現在、駐車券は市が予算を確保し配布しているところであるが、指定管理者が実施するヨガ教室等に参加される方の分についても市が用意している予算の中で配布しても良いか、または、指定管理者が駐車券を出すべきか。

【川口副会長】

それは市との契約の中での自主事業の位置づけによって決まってくるのでは。

【三幸株式会社：江澤氏】

指定管理者が開催している自主事業は、駐車券の発行ができないので、優先的にセンター隣の駐車場に停めていただく、また、登録団体の人は駐車券があるので、市営駐車場に停めてもらうことは心苦しいんですね。

先ほど、石井課長の方からお話しがあったんですけども、指定管理者が実施する自主事業の際も同様に駐車券の発行していただけるように、お話が決まれば、登録団体も自主事業に参加いただける方にも同様の対応できるのかなと思います。

センターは公共交通機関の整っている立地ではあるんですが、木更津という土地がまだまだ車社会であるのは変わらない。電車やバスで来てもらうことは大変ありがたいことですし、相乗りできてもらう、ご協力も必要なんですけれども、できれば、登録団体と自主事業に参加される方の条件を揃えてもらえると指定管理者としては、少し運営しやすいと考えます。

【湯谷会長】

先ほど、自主事業について説明があったが、自主事業には、まずはこの場所を知ってもらう事業と市民活動の活性化につながる事業がある。市民活動の活性化につながる事業の場合は参加される多くの方が登録団体のため駐車券の問題はないが、一方で、利用を促進するための事業であれば、今まで来たことがない人に来てもらうことが目的であることを踏まえ、市の方と協議していただきたい。予算が許さないとしょうがないと思うが、特に新たな利用者を広げるような活動については、駐車券を出しても良いと思う。

ひとまずは、利用団体とその手伝いの方、また、自主事業の中から特にセンターの活動に深く関わる場所に駐車券を出して当面の間、様子を見るのはどうか。

【市民活動支援課：石井課長】

ありがとうございます。検討させていただきます。

【湯谷会長】

議事が終了しましたので、進行を事務局へお返しいたします。

【市民活動支援課：阿津補佐】

貴重なご意見ありがとうございました。

以上をもちまして木更津市市民活動支援センター運営協議会第1回協議会を閉会します。